

このコラムは福祉の職場で働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝えます。  
今回登場するのは、入社3年目の畑さん。やりがいや今後の抱負について聞きました。

## ふたたび福祉の道へ

児童福祉の分野で働いていた母の影響で、福祉系の大学へ進学しました。卒業後は、仕事に不安や悩みがある人をサポートしたいと人材派遣会社へ就職。そこで出会った障がいや生活困窮など福祉的課題を抱える人を支援したいと思い、社会福祉士を取得後に入職しました。

## 相手の思いと向き合う

これまで、コロナ特例の貸付相談窓口やコミュニケーションソーシャルワーカー(CSW)として働いてきました。3年目の現在は、総務課で職員管理や共同募金、民生委員児童委員協議会(民児協)事務局と、多くの業務を経験。相手の方の思いと向き合い、多様な視点で柔軟に対応することを大切にしています。

CSWの時は、本人と家族、それぞれの言葉や態度の裏側にある本音を理解し、尊重できるように支援しました。現在も、民児協事務局として、一人ひとりの民生委員・児童委員とコミュニケーションをとりながら、活動しやすい環境づくりを模索し、少しずつ取り組みをすすめています。

## 新しいものを創りたい

柏原市社協は、共同募金のガチャガチャ募金を設置しています。柏原市社協イメージキャラクター「ほのぼのちゃん」の十二支バージョンのグッズを企画。「絶対欲しい」と学生が何度も挑戦してくれました。新しいアイデアを考え、結果につながることにやりがいを感じます。今後も、頼れる上司と相談しながら、どんどん新しいことにチャレンジしたいです。

## 頼られる存在に

CSWの頃に関わった地域の方から今でも相談があり、自分を頼ってもらえた時がうれしいです。社会保険などの制度の知識をつけることや、地域の方の思いに寄り添えきれずに苦労することもあります。読書や好きな芸能人を見てリフレッシュ。経験を力に、社協職員や地域の方からも頼られる存在になりたいです。



ほのぼのちゃん

社会福祉法人  
柏原市社会福祉協議会  
はたさき  
畑 沙希さん



## ふくしを巡る

No.14

# 歴史探訪

## 日本に“灯台”を

ライトハウス

アメリカではじまった視覚障がい者の幸福を追求するライトハウス運動。今回は、その運動の流れをくんで創設された、日本で最も古い視覚障がい者の総合福祉施設「社会福祉法人日本ライトハウス」の歴史を紹介するぞい。

世界的に有名なヘレン・ケラーとアメリカで出会ったのはこのころ。彼女の伝記や著書などを和訳して日本に広く紹介したんじや。岩橋の熱烈な要請により、昭和12(1937)年の初来日以降、岩橋はヘレン・ケラーと親交を結んだぞい。

戦後、昭和23(1948)年の2度目の来日も橋渡しをしたことが一つのきっかけとなり、翌年、日本で障がい者に対する初めての法律「身体障害者福祉法」が制定されたんじや。

その後、日本ライトハウスは、視覚障がい者のリハビリテーションや、情報提供事業、盲導犬の育成事業を運営。今年に創立100年を迎えたぞい。

現在、クラウドファンディングを活用し、「盲学校の生徒に星空を2022」という暗所視支援眼鏡を寄贈するプロジェクトを展開。開拓者の精神を引き継ぎ、水から陸に上がるようなさらなる進化が期待されるのう。



ケロ福



「その解き放つ心 日本盲界に光り輝く  
タケオ・イワハシ」

鶴見区の本部にある岩橋武夫の碑には、岩橋の死後に3度目の来日(昭和30(1955)年)を果たしたヘレン・ケラー直筆の言葉が刻まれています。